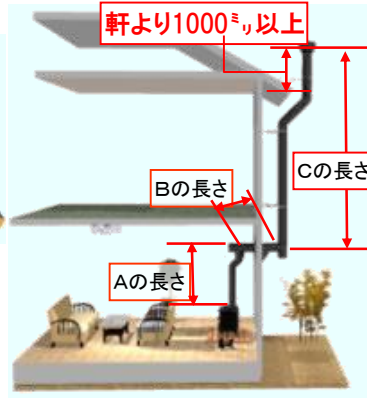
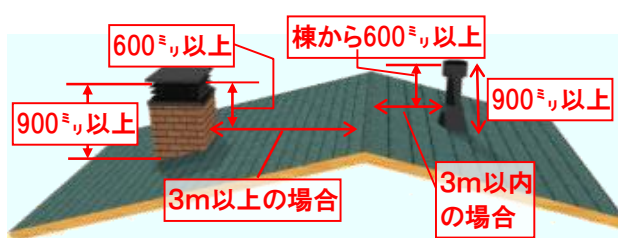


煙突の高さについて



＜屋根出し煙突の場合＞

煙突はなるべく曲げずに真っすぐ立ち上げるのが理想です。当然外気に触れる面積も少なく済みますのでドラフト効果も良好になります。煙突の設置は風圧帯に入らないよう、上記煙突高さを基準に設置して下さい。また屋根を貫通する付近は耐火処理をして、必ず二重煙突をご使用下さい。施工については専門知識を持つ施工店、販売店へご相談下さい。

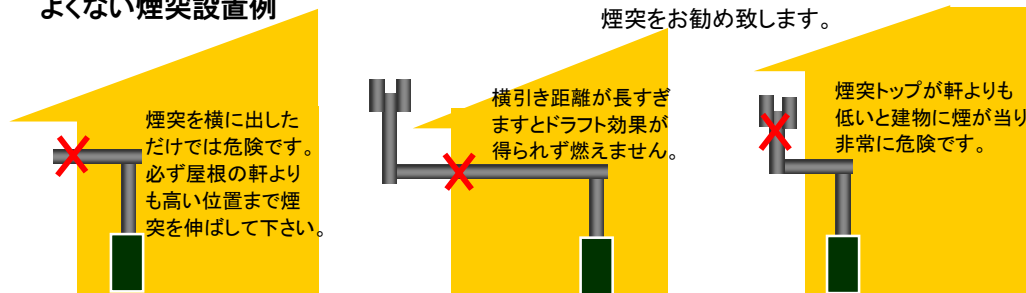
関連法令

- 消防法第9条
(火を使用する設備、器具等に対する規制)
- 建築基準法施行令第115条
(建築物に設ける煙突)
- 火災予防条例第1条(目的)
- 火災予防条例第6条(壁付暖炉)
- 火災予防条例第17条の2
(火を使用する設備に付属する煙突)
- 国土交通省告示225号

＜壁出し煙突の場合＞

煙突を壁出して設置する場合、効率よく燃焼させるため横引き(B)の長さを室内煙突長さ(A)の1/3以下で設置するのが理想です。しかし家の構造や屋根の軒などの都合で横引き距離を伸ばす場合は極力1.5m以内で横引き(B)を設置して下さい。それ以上伸ばしますとドラフト効果を得られなくなり、ススやタールが溜まりやすくなります。そして室外煙突(C)の長さは(B)の長さの1.5～2倍以上長くして下さい。また壁出しの場合は煙突が外気に触れる面積が大きいので、熱せられた煙が冷やされ結露してしまいますので、二重煙突をお勧め致します。

よくない煙突設置例



煙突を延長して軒よりも1m以上高くして下さい

壁出しの際は必ずメガネ石を使用して下さい。

以上の事項に十分注意して、安全に薪ストーブをご使用下さい。

ストーブを置く場所を壁の近くに設置して下さい

2階建以上の住宅でも煙突トップは軒より高くして下さい

HONMA HTC Series

検査日

鋳物薪ストーブ取扱説明書 Instructions Manual

ロット番号

検査者



Model
HTC-80TX

Details

- 輻射式鋳物薪ストーブ
- Size: W680 x D482 x H691mm
- 重量: 約155kg
- 煙突径: φ150mm
- 暖房面積: 約40～50坪
- 二次燃焼機能
- サイドローディングドア付
- 灰受け皿・ストーブ温度計付属
- Made in China

※イメージ

※ご使用になる前に、必ずこの「取扱い説明書」をお読み下さい。
またお読みになった後は大切に保管して下さい。
本製品は品質向上のため予告無く仕様及び外観を変更する場合があります。

HONMA 株式会社 ホンマ製作所

〒950-1237 新潟県新潟市南区北田中801番地8
TEL (025)362-1235(代) FAX (025)362-1238
Eメール support@honma-seisakusyo.co.jp
URL www.honma-seisakusyo.co.jp

この度は当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
当製品を安全にご使用していただくため、下記の事項を守って下さい。

使用上の注意

●注意事項は次の2つに分類しています

警告 このマークは取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う危険性、また火災や火傷等の危険性が考えられる場合

注意 このマークは取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性または物的障害のみの発生が考えられる場合

●本文中のマークは次の意味を表しています

	マークは絶対に行ってはいけない事を表しています
	マークは必ず守っていただきたい事を表しています

警告

①燃焼中はストーブや煙突に素手で触らない

触れると危険

②薪以外の燃料は絶対使用しない

薪以外禁止

③カーテンなど燃え易い物の近くへ設置しない

可燃物の変形、引火の恐れがあります。電化製品も近くにあると危険です。

④化学繊維、合板、竹などを薪として使用しない

竹、合板など
火力が強くなり、錆物面を破損させる恐れがあります。

⑤引火性、可燃性の物を近くに置かない

引火して爆発や火災を起こす原因となります。

⑥ストーブの上で洗濯物を干さない

引火して火災を起こす原因となります。

煙突掃除について

- 1) ストーブの周りに灰や煤が落ちててもよいように、ビニールシートや新聞紙を敷く。
- 2) ストーブ本体と煙突を外し、ビニール袋を煙突にガムテープ等で取りつける。
壁出し煙突の場合はT曲のフタを外し、そこに袋を取りつける。
- 3) 煙突掃除には煙突径と同じ径のワイヤーブラシを用意し、掃除棒にしっかりと取りつけて少しずつ動かす。これを2～3回ほど繰り返しますと殆どのススやタールは取れます。
- 4) 煙突内の掃除が終わったら、外した煙突を元通りにセットし終了。

※煙突掃除に必要なもの

脚立(安定性のよいもの)、梯子(高さ調整の出来るもの)、マスク、手袋、新聞紙、ビニールシート、ビニール袋、煙突用ワイヤーブラシ、煙突掃除棒、ガムテープ
※屋根勾配の急な場合は、無理をせず室内から掃除をしてください。

※屋根の上での掃除は十分に注意を払って足場を確保し、決して油断しないで下さい。

ストーブが良く燃えない、煙が逆流する

下記のような原因が考えられます。

- 1) 給気が十分取れていない場合に起こる。これは**気密性の高い住宅や24時間換気**の住宅に多く見られ、ストーブの扉を開けると炎が室内側へ逆流する**バックドラフト**の原因になり危険です。
室内に十分な空気を供給するために外気取入口を設置するか、部屋の扉を少し開け気密性を緩和させてご使用下さい。
また焚き付け時に室内で**換気扇**などをご使用の場合、**室内の気圧が下がり、煙が煙突に吸い込まれません**ので、着火時は換気扇を止めて下さい。
- 2) **煙突の高さが足りない**場合にも起こります。室内に煙が逆流し充満する事もあるので、室外煙突を延長し高くして下さい。
煙突設置基準では横引き長さ(室内高さ1/3以下)に対して、室外煙突高さは**1.5倍～2倍以上**ないと十分なドラフトが得られません。
- 3) 設置環境が**風圧帯**にある場合にも起こります。風圧帯は**建物の屋根の形状**や周辺の環境によって、室内の気圧や煙突内の気圧より、屋外の気圧が高圧になる現象です。
この気圧差により、空気が煙突内に引き込まれて逆流してしまいます。**煙突トップを棟より高く**してして下さい。風圧帯は気象条件でも異なります。
- 4) **スス・タール**が煙突、ストーブ本体に付着していませんか？
煙道内が狭くなると排煙の通りが悪くなります。しかも煙道火災の原因にも繋がりますので**煙突、ストーブの掃除**は、こまめに行なって下さい。
また使用する薪についても、**広葉樹**をお勧めします。
松や杉などの針葉樹はヤニが多く、完全燃焼しないとクレオソートを発生させ煙道内に付着し易いです。**湿った薪や生木**も不完全燃焼を起こし易く、煙道内をスス・タールが堆積し、狭くしてしまいますので危険です。
薪は薪割してから1年くらい、**風通しの良いところで乾燥**させてからご使用下さい。
或いは鳥などが**巣**を作ってしまうと同様に煙道を塞いでしまいますので、掃除して取り除いて下さい。

煙突も薪ストーブ暖房にとって重要な部分です。設置方法が不十分だと性能及び安全性を損なう恐れがあります。薪ストーブは薪(燃料)を燃焼させる事により、温まった煙突内部の空気がドラフト効果(上昇気流)をおこし、煙を煙突から屋外へ排出します。燃焼温度が高ければ気流は大きくなり、スムーズな排出が出来ますが、外気温が低過ぎますと煙突が温まらずに排出がうまく出来ません。

そして排煙に含まれるタール等が急激に冷やされますと液化して、クレオソートの原因となり、煙突内部に付着し、それが堆積して煙道を狭くしたり、煙道火災を起こしてしまう原因ともなりますのでご注意ください。

煙突は外気になるべく触れないような構造が望ましいですが、シングル煙突よりも断熱効果のある二重煙突を設置するのが良いでしょう。

また二重煙突は煙突内部の排煙温度を冷気から守るだけではなく、壁から煙突を出す際のように、煙突から熱を受け易い箇所、可燃物の近くを煙突が通るなどといった場合安全面を考慮して二重煙突にして下さい。

ストーブの取り付け、煙突の設置は建物及びお部屋の構造、風向き、屋根の勾配、雪の影響、火災予防などを考慮し、条件に合った部材を選び、正しく設置して下さい。

煙道火災について

煙道内に堆積したスス・タールなどが高温に熱せられ瞬間的に発火する事があります。これが煙道火災です。煙道火災は上記で述べたように、排煙が冷やされスス・タールが堆積しますと、起こり易くなります。煙突表面温度は非常に高温となり、煙突が真っ赤になるケースもあります。また壁などに熱が伝わり、火災になる恐れがありますので、これを防ぐため煙突掃除は定期的に、必ず行なって下さい。

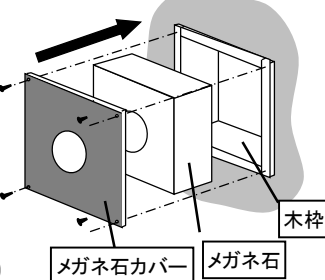
また水分の多い生木や松、杉などの薪はスス・タールが発生し易いので、煙突掃除はこまめに行なって下さい。また煙突クリーナー等の触媒を利用することによって、タールやスス等を落とし易くし、煙突掃除を軽減するものもありますので、ご利用下さい。

低温炭化について

ストーブ本体や煙突表面からの輻射熱により、数年間に渡って木材の表面が炭化して行く現象が「低温炭化」現象です。これは木材の種類、壁面・床・天井の材質や構造によって80℃位の低温からでも発生します。低温炭化を防ぐにはストーブ本体、煙突から離隔距離を保ち、設置して下さい。

煙突を壁から出す場合はメガネ石を使用して下さい。

【取り付け方】



- ① メガネ石を納めるための木枠を作成。
- ② この木枠が納まる大きさに壁を抜き、木枠を固定する。
- ③ 木枠にメガネ石をはめ、僅かでも空間が出来る場合は眼鏡用断熱材で完全に隙間を埋める。
- ④ メガネ石カバーを木枠にビス止めし、カバーの周りを耐熱コーキングして完成。

注意：壁を抜く場所が柱や間柱、筋交いに当たらないようご注意ください。

：メガネ石は壁の厚さよりも厚いものを選んで下さい。

：二重煙突の場合は煙突外径に合ったメガネ石と強化眼鏡板をご使用下さい。

①ストーブの機能について

！注意

①不燃材を使用した炉台の上にストーブを設置する事



低温炭化を起こし、火災の原因になります。

②ストーブと壁の離隔距離を十分に取る事



③万が一に備え、消火器の場所を確認する事



ストーブのある部屋へ常備する。

④燃焼中は時々換気する事



一酸化炭素中毒を防ぐため換気して下さい。
1時間に1回、1～2分程度。

⑤薪投入時以外燃焼中はストーブの扉を閉める事



火の粉が落ちたり煙が大量に溢れ出し、室内を汚す恐れがあります。

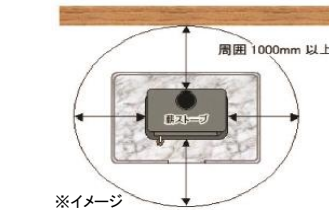
⑥煙突はこまめに点検し定期的に掃除をする事



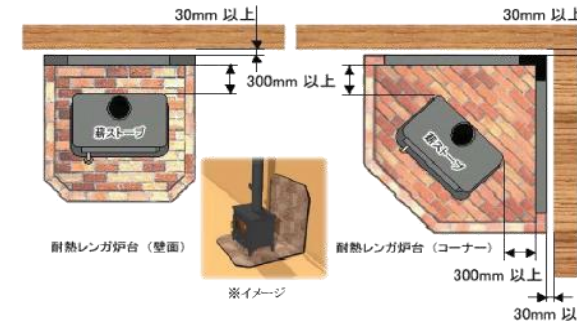
煙突に煤やタールが詰まり、不完全燃焼や煙道火災を引き起こす危険性があります。

！ 鋳物薪ストーブは、ストーブ台や炉台の上に設置しましょう

可燃性壁材または可燃物との離隔



※イメージ



※イメージ

※イメージ

※イメージ

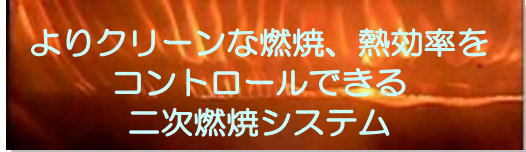
ストーブ本体や煙突からの輻射熱によって床や壁が焦げないように必ず薪ストーブを設置する際はストーブ台や炉台を設けて下さい。

←薪ストーブと壁との間に耐火壁が無い場合は、壁から1m以上の離隔を取って下さい。また可燃性のあるものからも1m以上離して下さい。

←炉壁、耐火壁がある場合はそこから30cm以上離隔を取って下さい。

【ワンポイント】
炉壁や耐火壁は壁材と密着しないように30mm以上の空気層を設けて下さい。

ストーブ・煙突参考設置例

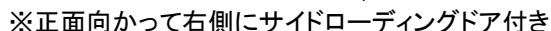


ストーブ正面下部のレバーを引きますと底面の「二次空気弁」が開き、二次燃焼用空気が吸い込まれ熱せられた火室へ噴出されます。一次燃焼で燃え残った微粒子やガスを煙突に流れる前にもう一度燃焼させることができます。よって燃焼効率を上げると同時に、よりクリーンな排気となります。

またストーブ本体からは遠赤外線によって部屋を柔らかな温かさで暖房します。

HTC-80TX断面图

ストーブトッポ



※予め耐熱ガラスは金具で固定してありますが輸送中に緩む場合もあります。

今一度、ご使用前に緩んでいないか点検して下さい。

耐熱ガラスは耐熱温度600℃です。衝撃に弱いので取扱いにご注意下さい。

交換ガラスのご注文、その他部品のご用命は販売店、若しくは弊社までご連絡下さい。

この薪ストーブは熱に強い鋳物を素材として使われていますが、新しいストーブはまだ高温に

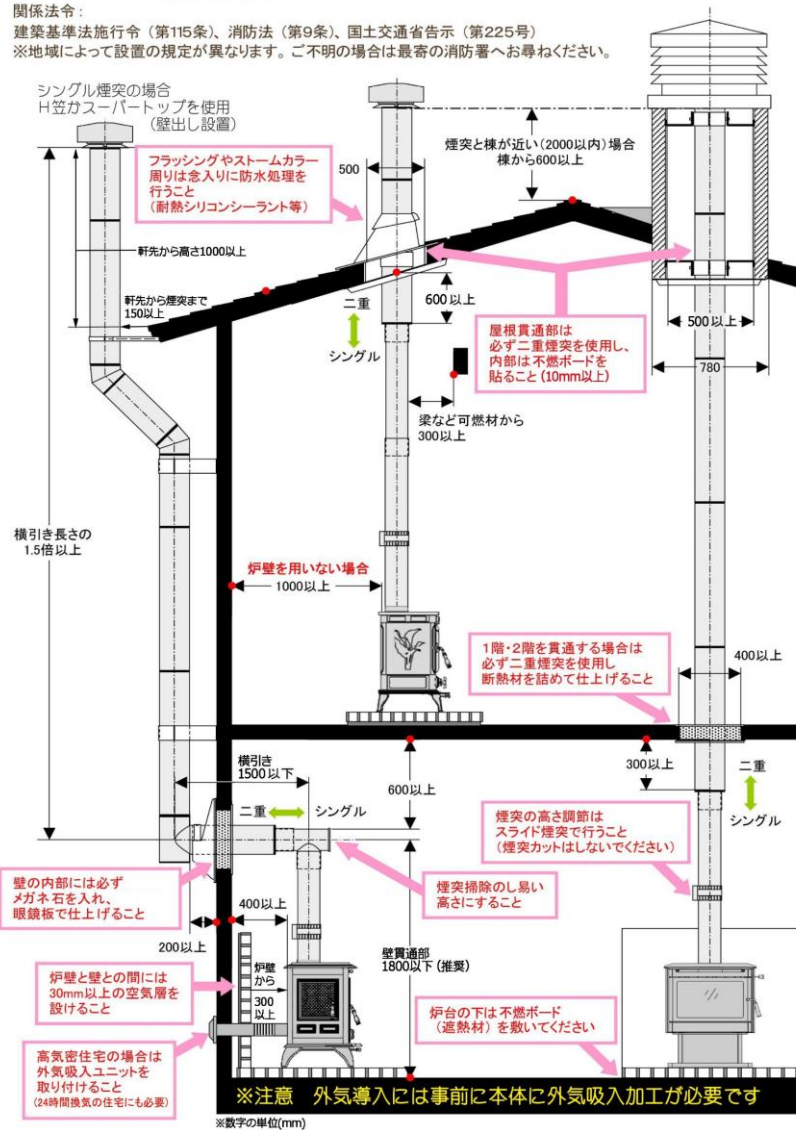
施工の一例として記載してありますが、関連法令等をご確認の上、専門業者様、工務店様とご相談下さい。

ストーブを安全にお使いいただくために、離隔距離や注意事項をよくご確認ください。
設置に不備があると**火災**や**燃焼不良**などを引き起こす可能性があります。

關係法令：

建築基準法施行令(第115条)、消防法(第9条)、国土交通省告示(第225号)

※地域によって設置の規定が異なります。ご不明の場合は最寄の消防署へお尋ねください。



(設置されようとする部屋・場所・環境において上記パターン以外となる場合がございます)

③本体組立て手順

注意： 本製品は鋳物製のため非常に重い商品です。

対して馴染みがありません。特に急激に高温まで上げてしまいますと、最悪の場合、変形することがありますので、ご注意ください。この現象を防ぐために慣らし運転が必要です。

①ストーブ内に予め、灰や砂を入れて下さい。

②ストーブ温度計を使用の場合、200℃前後で3時間程度燃焼します。

※始めはストーブ全体から煙が立ち上がります。これは塗料が焼けて発生する煙です。しばらくすると煙も出なくなりますので、換気しながら慣らしして下さい。

③3時間経過したら一度火を消して、表面が冷めるまでお待ち下さい。

④その後、再度200℃前後で3時間程度燃焼させます。

この作業を2～3回行ってから本格的にご使用下さい。

⑤毎年、使い始めは慣らし運転するよう心がけ、ご使用下さい。

薪ストーブ用温度計の取り付け場所



バイメタル式ストーブ温度計

裏のマグネットによりストーブ本体へ取り付けが簡単
見やすい場所へ取り付けて下さい

付属の温度計は形状が異なる場合があります

薪ストーブの温度目安 (ストーブ上面温度)

200℃以下	低温燃焼は煙が多く発生し、クレオソート・ススが多く発生します。空気口を開け燃焼を促進させて下さい。十分乾燥した薪をご使用下さい。
約200℃～300℃	適正燃焼温度です。
300℃以上	ストーブの温度が高すぎますので、鋳物を傷めたり周囲が加熱する原因になります。空気口を絞って火力を下げして下さい。

※薪以外は燃やさないで下さい。特にプラスチック、ビニール系は絶対にストーブ内で燃やさないで下さい。またベニヤ板、合板などは混合物及び接着剤により大変高温になりますので危険です。

※松や杉など針葉樹はヤニや煤が多く発生しますので注意して下さい。

※最初にきちんと慣らし運転を行わず、鋳物の損傷が起きた場合は交換等の要請をお受けできません。

薪の選び方について

薪は大きく分けて「広葉樹」と「針葉樹」があり、その特性を知って入手して下さい。

※薪は広葉樹がお勧め

	主な薪	成長	火力	着火性	煙の量	火の粉	入手性
広葉樹	ナラ	遅い	高い	中間	少ない	少ない	容易
	カシ	遅い	高い	中間	少ない	少ない	困難
	サクラ	中間	高い	悪い	少ない	中間	困難
針葉樹	赤松	早い	低い	良い	多い	多い	容易
	杉	早い	低い	良い	多い	中間	容易
	ヒノキ	早い	低い	良い	多い	多い	容易

広葉樹は他にも・・
リンゴ、白樺、ブナなど

針葉樹は他にも・・
唐松、もみの木など

③本体組立て手順 つづき

4) 煙突受けを取り付けます。

①煙突受けをストーブ上面の煙突口に合わせ、

組立て時、移動したり持ち上げたりする際は必ず2人以上で行なって下さい。またケガをしないよう、組立てには十分注意して下さい。

ストーブ内に入っている部品

脚部	煙突受け(φ150用)	薪ガードフェンス	M6 皿ネジ、ナット ワッシャー小
六角ボルト、ワッシャー	六角棒レンチ(小)	薪落下防止柵	煙突口取付
脚取付用	ツマミの絞め直し用 二次空気	鋳物ハンドル	バッフルプレート
ドアハンドル(ベークライト)	灰受け皿	レバー操作・皿取り出し 六角棒レンチ(大)	二次燃焼ノズルの 先に取り付け
プラスドライバーで固定 正面・サイド用			

※燃焼中、ドアハンドルの開閉時は手袋をして下さい

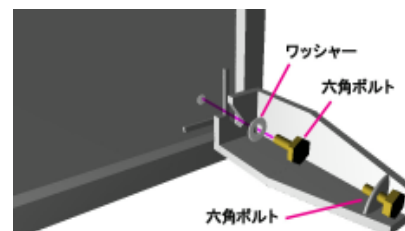
- 1) 梱包木枠を外し、ダンボール箱を取り除いて下さい。
(廃材の処理はお住まいの地域の分別回収に従って処理をお願いします)
- 2) 焚き口扉を開け、中の部品を取り出し、部品点数を確認して下さい。
- 3) 脚を取り付けます。



①ストーブ本体を木材やブロックの上に置き、脚が取り付けられる隙間を空けて下さい。

(ストーブを倒して脚を取り付ける場合は滑らないように注意して下さい)

②脚を取り付ける箇所の六角ネジを外して下さい。(このネジは目印用で不要です)



③六角ボルトにワッシャーを通しストーブ本体の底へ脚をあてながら仮止めします。

④脚の位置を確かめてからスパナなどで4箇所固定して下さい。

⑤アジャスター用のボルトはストーブを設置してから調整下さい。

※ストーブは重いので2人以上で作業を行って下さい。

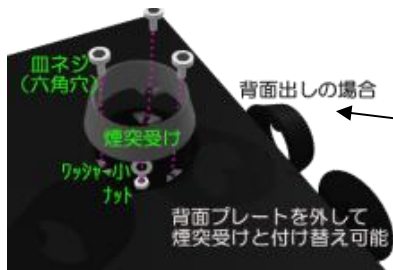
注意: ストーブを倒してから脚を取り付ける場合は、取り付けした後ストーブを起こす際、脚にストーブの荷重が架かって脚が破損する恐れがありますのでご注意ください。

3) 二次燃焼のコントロール

※二次空気用コントロールレバーを引き、ストーブ底面から空気を入れます



レバーを引く: 二次燃焼空気弁が開く



ワッシャー(小)とナットで仮留めします。
 ②3箇所仮留めしてから、本締めして下さい。
 ※付属の六角レンチを使用して下さい
 ③背面出しの場合は予め取り付けである背面のプレートを取り外し、煙突受けと付け替えて下さい。
 ※背面プレートは六角レンチでビスを外してストッパーを外して下さい。
 (ビスが本体の隙間に落ちないように注意して下さい)
 内側から見た図

5) ストープを設置する場所へ移動したら煙突をセットして完成です。

※煙突は煙突受けの内側へ差し込んで固定して下さい。

※煙突受けには隙間ができますのでガスケットロープまたは耐火セメントなどで隙間を埋めて下さい。

④ご使用方法

1) 薪の焚き付け例

※薪は必ず乾燥した薪をご使用下さい。



使用例 (HTC-50TX)
 空気取入れ口を全て開け
 薪ストーブ用着火材を1、2個
 細い薪の下に置き着火します

着火したら扉を閉めて
 様子をみます

空気口の調整をしながら細い薪に着火し勢いが出てきたら
 太い薪をサイド扉または正面扉から速やかに投入して下さい

補足: 着火の際は煙が多く出ます。

薪ストーブ用着火材を使いますと焚き付けがカンタンです。

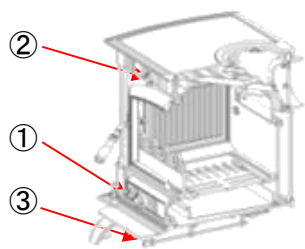
また薪が湿っていますと着火しにくい場合があります。

注意: 耐火ガラスに薪が当たらないように薪を投入して下さい。

注意: 初期燃焼中はストーブ表面の塗料が焼ける臭いがしますが、異常ではありません。

しばらく換気してご使用下さい。その後臭いはなくなります。

2) 空気調節(火力調整)



- 1) 着火時は①、②空気取入れ口のダイヤルを回して取入れ口を開けて下さい。
- 2) 順調に火がつき始めてきたら、炎の勢いを確認して下さい。③を引くと二次燃焼空気が入り込みます。
- 3) ストープ温度計でストーブ表面温度をチェックして、炎の勢いが上がり温度が上がり過ぎないように①、②を調節して適正温度で燃焼するようにして下さい。
- 4) ①、②を完全に閉めますと燃焼が弱まります。
- 5) 薪が「おき火」になったら薪を追加投入して下さい。
- 6) 消火の時は①、②、③を完全に閉めて下さい。

6

注意: 燃焼中は火傷に注意し、操作は必ず手袋や革手袋を装着して行って下さい



イメージ図



二次空気が火室内のノズルから噴出し、二次燃焼を発生させます。
 燃焼効率がアップします。
 (ストーブの温度が低い時は発生しません)

レバーを押す: 二次燃焼空気弁が閉まる

焚き始めや消化時はレバーを押して下さい。

注意: 燃焼中にレバーを操作する際は鋳物ハンドルを使うか、必ず手袋をして行って下さい。

4) 灰の後始末

ストーブ内に溜まった灰はまだ熱を持っていますので後始末する際も十分注意して下さい。

灰を入れる容器等は燃えない材質のバケツ等に入れフタをして密閉し保管下さい。

全ての灰を取り除かず少し残しておけば次に使う時の火種の温床になり鋳物も痛めません。

灰を処分する場合は、地域の市町村環境課へ問い合わせして下さい。地域により分別方法が異なりますので、指定された処分方法に従って下さい。

⑤ストーブのメンテナンス

鋳物薪ストーブを効率よく使用するためには、日頃のお手入れが大切です。

ストーブの補修や煙突掃除などは定期的に行なって下さい。またメンテナンス用品や掃除用品を各種取り揃えておりますので、弊社またはストーブ販売店へ問い合わせ下さい。

※気密を保つために使用しているガスケットロープは箇所により太さが異なります

・扉周り: 直径8mm ・ガラス周り、煙突口: 直径6mm を使用しています

ガラスクリーナー #84 耐熱ガラスのス・ 汚れ落とし 乳液タイプ	ガラスクリーナー #82 耐熱ガラスのス・ 汚れ落とし スプレータイプ	耐火セメント #77 鋳物用 鋳物の接着、 目地補修	耐火セメント #77E ガスケット用 ガスケット ロープの接着	ガスケットロープ 6mm x 1m 8mm x 1m 定期的な交換を
耐熱ペイント 鋳物表面の塗装 保護・補修	耐火セメント #64 鋳物の補修 耐火レンガの補修	煙突クリーナー 薪と一緒に焚いて使用 煙突内の掃除パウダー	ネジ付ワイヤーブラシ Φ106用、Φ120用 Φ150用があります	煙突掃除棒 4本つなぎ (90cm x 4本) 先端にブラシを付けられます
耐熱シリコン シーラント #76A 雨仕舞など 幅広く使え ます チューブ入	耐熱シリコン シーラント #76 雨仕舞など 幅広く使え ます カートリッジ用	ストーブ ポリッシュ #70 鋳物表面の ワックス サビ防止に	ファイヤースターター#500C 廃材をリサイクルした 焚き付け用の着火材	ストーブグローブ#702 高級革使用のストーブ用手袋

※長年使用した鋳物薪ストーブを処分する際は、粗大ごみ扱いとなる場合がありますので、地域の市町村環境課、またはごみ回収業者へお問い合わせ下さい。

7